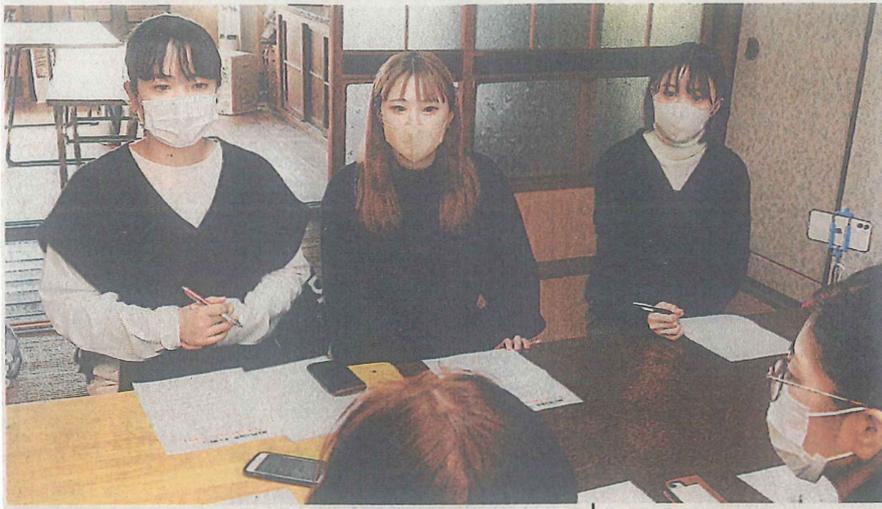


# 学生たちがラジオで発信



愛知淑徳大の学生たちが取材、編集を担当するラジオ番組が、一宮市のコミュニティラジオ局「FMいちのみや」で放送されている。地元でマルシェを開く関係者にインタビューし、情報を発信。学生がラジオ好きだったことから、企画が実現した。「イベントを始めたきっかけを教えてください」。同大交流文化学部（千種区）三年の若森明日香さん（左）ら三人は十四日、一宮市内の古

民家貸しスペースでインタビューを収録した。相手は、同所で野菜やパンの販売イベントを開く主催者ら。開催への思いやコロナ禍の影響などを質問し、iPhoneで録音した。

番組制作は、ラジオを聴くのが大好きな若森さんが二月、ゼミの教授に「番組を作ってみよう」と相談したことがきっかけ。教授の知り合いであるFMいちのみやの鳩山佳江社長の協力を得て、話が進んだ。若森さんが大学で研究対象にしているマルシェをテーマとし、番組名は「いちのみやマルシェ応援団!」とした。現在、二、三年生七人で制作。取材後はパソコンで自分たちで編集し、音声データを送付。同局がチェックした上で、十月から毎月第

## マルシェを取材 広がる関心

一土曜の午前十〜十時半に放送されている。

取材を通じた出会いで、学生たちは関心の幅を広げている様子。十四日の取材を担当した石倉佳奈さん（二）は「社会人に意見を聞ける貴重な機会。そんな人生あるんだって驚く」。中谷さくらさん（三）は「自分も地元の催しに関わりたいなど思った」と話した。

鳩山社長は「体当たりで進めているのが、学生らしくいい。若者が地域に目を向けてくれることで取材先も喜ぶ」と評価。若森さんは「ゼロから自分たちで作る出すのはやはり面白い。番組を聴いて、マルシェや交流の場を知ってほしい」と期待した。

今回取材した内容は十二月四日に放送。インターネットでも聴ける。インスタグラム（@ichinomiyamarche）でも情報を発信している。（下條大樹）

2021年11月21日（日）中日新聞 朝刊 11面  
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。